



輪島塗会館

計画地は輪島市の中心部に位置し、観光名所である『朝市通り』から近く、観光客が賑わう地域である。敷地は、漆ロードとして整備している国道249号線、河原田川沿い及び朝市駐車場に面した市道の3方を道路に囲われた変形敷地である。

建物の構成は大きく展示部門と販売部門の2つに分けられ、1階は販売部門、2階は展示部門と明確なゾーニングとする。

1階の販売部門は敷地輪郭に合わせた大きなワンフロアの構成とする。展示販売室・特別展示室と会議室を隣接させ、会議室を体験室や研究室として各種イベントに利用でき、また事務室を中心配置することで来客対応がスムーズに行えるように配慮している。

漆ロード側及び朝市駐車場からの2つの出入り口を持ち、全面をガラス張りとし、店内の様子及び商品が伺える構成とする。

販売室に面して、庇の軒下空間をつくり、多目的スペースとして屋外でのイベント、街歩きする観光客の休憩場所等になるように配慮するとともに、朝市通り、川沿いの景観、漆ロードを結ぶ周辺地域の回遊性を高める効果も意図している。

展示部門は津波の影響を考慮し2階に配置し、雰囲気の異なる2つの展示室を設ける。

展示室1は輪島塗の100を超える全工程をひとつひとつの御椀で展示するインスタレーションや輪島塗の製作道具を展示し、展示室2は屋根勾配に合わせた勾配天井とし、和紙クロス、拭き漆等落ち着いた雰囲気とし輪島塗作品とじっくり向き合える環境とする。

外観については、1階展示販売室への日射を防ぐ庇を建物前面に設置する。切妻+下屋出しというファサード（立面）は輪島の町並みに見られる塗師屋造りと同じ構成としている。

2階のふたつの展示室にそれぞれに瓦の屋根を掛け、建物ボリュームを2つに分けることで、周辺の店舗や住宅と同等のボリューム構成となり、周囲の景観に溶け込み親しみやすい外観とする。

また、2つの展示室ボリュームを川沿いの交差点に開くことで正面性をつくり、川沿い景観の新しい中心点、シンボルとなるように計画した。

輪島塗の製作工程や作品自身に触れ、深い理解を得つつ、また親しみやすい建物構成とすることで、輪島塗や漆文化の素晴らしさをより身近に感じてもらえる施設になることを期待している。

